

## 2019（令和元）年度懸賞論文受賞者決定報告

当センターにおける懸賞論文募集は、九州圏における交通・観光事業の発展及び地域社会の活性化に寄与することを目的に、2013（平成25）年度から開始し本年度で7年度目となります。本年度も大学の先生等の支援、ご協力を頂き、3大学から4件の応募がございました。（昨年度応募8件）

応募のありました論文につきましては、懸賞論文審査委員会において審査を行った結果、以下の通り優秀賞2編が決定されました。（なお本年度は最優秀賞該当者無し）

優秀賞に選定された「乗合バスの運転手不足問題」は、地域住民の移動手段としての公共交通の維持が少子高齢化や過疎化の進展の中で重要な課題であり、文献調査や事業者へのヒアリングなどを通じて、問題の背景や所在を把握し、自らの視点から具体的な解決方法を論理的にまとめた優れた論文と考えます。過疎地域や様々なバス事業者の状況に関する分析を加えると、さらに良い研究になると思われれます。

同、優秀賞「コンテンツツーリズムと訪日外国人観光客に関する一考察」は、コンテンツを新たな観光資源とみなす優れた着眼点を評価しました。コンテンツを観光のプロモーションに活用する可能性について、その背景や想定される効果が適切に分析できており、よくまとまった提案と考えます。しかし、具体的にインバウンド客の誘致にどのような形でいっていくのかについての論拠が弱く、実現性に関する分析や独自調査による実現可能な提案があると、より良いものとなると思われれます。

このような意見が審査委員会において出されました。

これらの優秀賞受賞論文は、当センターホームページに、また後日、機関誌九州うんゆジャーナルに論文要旨を掲載することにしております。

なお、授賞式を2020年3月2日に開催予定でしたが新型コロナウイルスの国内感染拡大防止の観点から中止せざるを得なくなりました。受賞者には竹島会長より個別に表彰状と副賞が授与されました。

優 秀 賞	受 賞 者	大城啓渡、田中美帆、河野耕之（共同執筆）
	大学等名	福岡大学 商学部
	テ ー マ	乗合バスの運転手不足問題 ～事業者と行政はどう対処すべきか～

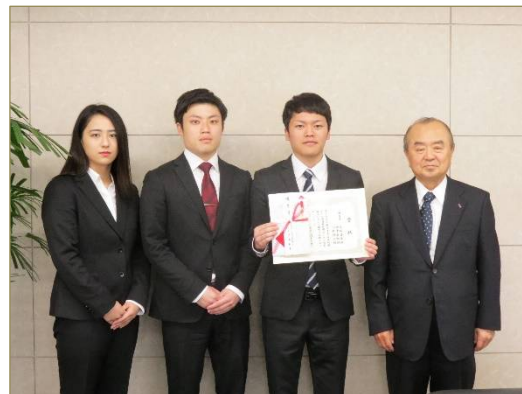
優 秀 賞	受 賞 者	蛭子遥香
	大学等名	西南学院大学 商学部
	テ ー マ	コンテンツツーリズムと訪日外国人観光客に関する一考察 ～アニメ聖地巡礼を中心に～

○ 受賞された皆様

西南学院大学の受賞者  
(左から蛭子様、竹島会長)



福岡大学の受賞者の皆様  
(左から田中様、河野様、大城様、竹島会長)



○ 懸賞論文審査員会委員名

星野 裕志 九州大学 大学院 経済学研究院 教授  
千 相哲 九州産業大学 地域共創学部 教授 (地域共創学部長)  
辰巳 浩 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授  
福田 晴仁 西南学院大学 商学部 教授  
堀 信太郎 九州運輸局 観光部 部長  
大黒伊勢夫 (公財)九州運輸振興センター 理事  
(西日本鉄道(株)取締役常任監査等委員)

○ 募集経緯

- ・ 第1回懸賞論文審査委員会 (募集要項等決定) 2019年4月26日開催
- ・ 募集期間 2019年5月～10月
- ・ 第1次審査 (各委員による論文査読審査) 2019年11月中
- ・ 第2回審査委員会 (第2次審査) 2020年1月9日

○ 応募論文 4編 (以下のテーマ)

- ① コンテンツツーリズムと訪日外国人観光客に関する一考察  
～アニメ聖地巡礼を中心に～
- ② 世界文化遺産は地域振興に本当に役立つか
- ③ 乗合バスの運転手不足問題  
～事業者と行政はどう対処すべきか～
- ④ 倉庫業界における人手不足対策の検討

論題「乗合バスの運転手不足問題～事業者と行政はどう対処すべきか～」

氏名 大城 啓渡  
田中 美帆  
河野 耕之

わが国では少子高齢化が急速に進んでおり、生産労働人口の減少が問題となっている。それに伴う労働力不足は全産業で問題となっているが、特に乗合バス市場における運転手不足は、年々深刻化している。輸送人員の減少による乗合バス事業者の経営が悪化する中で、赤字を理由とする路線廃止や減便はもちろん、近年は乗合バスの運転手不足により、利益をあげている黒字路線でさえも路線の減便や廃止をせざるを得ない事例がみられるようになってきた。今後さらなる人口減少の加速が確実視されているなかで、乗合バスの運転手不足の問題は、真剣にその対策を打ち出さなければならない状況にまで来ている。

そこで本研究ではまず、乗合バス市場の変遷や事業者の経営状況などを考察し、運転手不足の要因を探った。その現状を踏まえ、事業者と行政側が行う乗合バス運転手不足対策について分析した。しかし、現状の乗合バス事業者がとっている対策や企業努力だけでは、十分な成果があげられていない。厳しい経営環境にある乗合バス事業者にとって、運転手不足対策はどれも一定の費用負担を必要とするものばかりで、事業者によっては経営自体が成り立たない可能性さえも出てくる。そのため、国や地方自治体との連携は非常に重要なものになってくる。しかし行政側は、運転手不足問題の深刻な状況は十分に認識しているが、どこか事業者任せであるかのようにみえる。このまま経営状況の良くない乗合バス事業者に運転手不足問題の主体的な対策を任せる体制のままでは、市民の生活の足を本当に守っているのかは疑問である。そこで国や地方自治体は、補助金制度など主体的な対策を行うべきである。

キーワード：乗合バス事業、運転手不足、規制、補助金

## コンテンツツーリズムと訪日外国人観光客に関する一考察

### ーアニメ聖地巡礼を中心にー (要旨)

蛭子 遥香

近年、外国人観光客数は増加しており、今後東京オリンピックに向けさらなる増加が見込まれている。そこで本論文では、その後も増加傾向を維持する方策としてコンテンツツーリズムが役に立つのではないかという観点から分析を行った。コンテンツツーリズムとは、一般に聖地巡礼と呼ばれる、アニメなどのコンテンツの舞台となった地域や場所を訪れることである。日本のコンテンツを観光資源と捉え、海外へと広めていくにあたっての課題や方策について検討した。

まず、日本のアニメがどのように海外に広まっていくのかを調査した。海外へ日本のアニメ映画が公開される際には、収益が見込めることが必要であるため、日本でのヒットが条件であるといえる。その上でアニメを観光資源として政策を行い、成功した地域の事例を取り上げて分析した。アニメの舞台として設定された地域の中には、著作権者と協力しグッズ販売などを行い、収益化に成功しているケースもあった。また、外国人観光客の訪日目的を明らかにし、観光客誘致の計画を策定する上で注意すべき点や課題を述べた。

以上のような分析から、観光ルートの策定が外国人観光客に対し有効となる政策のひとつであるといえる。聖地となるコンテンツの舞台は、必ずしも交通の便が良い地域にあるとは限らない。地域の利害関係者が協力し、観光客の利便性を高めつつその地域の人々にとってもメリットのある観光ルートを提案することが外国人観光客の誘致に繋がるといえる。地域の人々が協力することで、魅力的な観光地、巡礼したくなる聖地を作ることができるのではないかということが、本研究を通して得られた提言である。

(キーワード：コンテンツツーリズム・アニメ聖地巡礼・訪日外国人観光客・観光目的)

平成 31 年度第 1 回懸賞論文審査委員会 (2019 年 4 月 26 日開催)



令和元年度第 2 回懸賞論文審査委員会 (2020 年 1 月 9 日開催)

